

季刊

# 博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM  
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 78

秋の企画展

## 婚礼

—ニッポンブライダル考

### 福島県立博物館



晩婚化、非婚化が話題に上ることの多い昨今、結婚制度や結婚そのものの複雑な問題や現状が、数多くの著作やテレビなどで論じられています。それでも、「結婚＝幸福」のイメージが根強く私たちの中にあるのは何故でしょうか。結婚後の現実がどうであれ、周囲から無条件の祝福を受け、人生の門出と表現される「婚礼」が、いつの時代どの地域にあっても、祝福に満ち将来の幸福の可能性を秘めているからでしょう。

本展では、そんな、人生の様々な側面を内包しつつも華やかな「婚礼」を取り上げます。婚礼に関する江戸時代から現代にかけての作品、資料を通して、日本の婚礼文化の諸相をご覧下さい。

### 一 婚礼の諸相

各家庭で行っていた婚礼は、一九七〇年代以降、ホテルや結婚式場で行う結婚式・披露宴へと姿を変えました。花嫁衣装も和装からウェディングドレスへと比重が変わります。洋式の婚礼の普及に尽力してきたブライダルファッションデザイナー桂由美氏デザインの一九六〇年代から二〇〇〇年代までのウェディングドレス（ユミカツラインターナショナル）や、女の子の憧れの体現者リカちゃん人形の初代から四代目のウェディングドレス姿（日本玩具文化財団）は、現代の婚礼形態の象徴でもあります。

婚礼の様々な姿を提示するこのコーナーでは、婚礼や花嫁を描いた絵画作品も展示します。多くの美人画を描いた日本画家上村松園が、美しい花嫁を捉えた「人生の花」（京都市美術館）。白河藩主松平定信の妹で一〇代将軍家治の養女として紀州徳川家へ嫁いだ種姫の婚礼行列を描いた「徳川種姫婚礼行列図」（東京国立博物館）。その他、狐や虫など人間以外の生き物による婚礼の姿も紹介します。

### 二 晴れの日の装い

晴れの日の華やいだ花嫁の装いは、婚礼の楽しみの一つです。ここでは江戸時代から明治時代の和装の花嫁衣装と装身具から、日本の伝統的な婚礼衣装の華やかさ、往時の刺繍や染めの素晴らしさをご覧ください。徳川種姫の気品あふれる打掛（東京国立博物館）、商家の娘たちが身につけた目にも鮮やかな打掛の数々（個人蔵）は、見ているだけで幸せな気持ちにしてくれます。

## 秋の企画展

# 婚礼 — ニッポンブライダル考

●会期 平成17年9月23日(金・祝) — 11月6日(日)



白綸子地菖蒲牡丹葵菱文様打掛 種姫所用（東京国立博物館）



「人生の花」上村松園筆（京都市美術館）

### 三 婚礼道具—わが子のために

他家へ嫁ぐわが子や姉妹のために揃えられた婚礼道具には、嫁ぐ者の幸せを願う気持ちがこめられています。二本松藩主だった丹羽家伝来の雛道具にはお姫様の婚礼道具の種類の豊富さをご覧ください。蒲生氏郷の妹が南部家へ嫁ぐ際に持参したとされる「西洋風俗図屏風」（神戸市立博物館）や相馬藩主に嫁いだ奥方たちが持参した蒔絵の美しい婚礼道具（小高町 同慶寺）、白河藩主松平定信が娘の列姫にもたせた「筒守」（諏訪市 仏法紹隆寺）と「竹取物語絵巻」（諏訪市立博物館）など、家族への想いがこめられた品々をご紹介します。

### 四 理想の夫婦—尉と姥

婚礼で語られた謡曲「高砂」の主人公の尉と姥は、実は黒松と赤松の精。異なる種類の松ですが、お互いを想う気持ちが一つ根の松へと姿を変え、共に白髪となるまで添い遂げた理想の夫婦となったのです。ここでは柵木良得や佐竹永海、山内神斧など福島ゆかりの絵師たちが描く理想の夫婦像を取り上げます。絵師によって変わる、尉と姥の雰囲気を見比べるのも一興です。

### 五 婚礼ディスプレイ

婚礼を行う家では、花嫁花婿の末永い幸せを願って床飾りをしました。蓬莱などのめでたい画題の掛軸を下げ、松竹梅と鶴亀の飾りをのせた島台や富貴とかけて落を飾った富貴台などを飾りました。かつての婚礼ディスプレイは日本的な吉祥デザインが盛りだくさんです。一緒に飾った祝いの酒を入れた樽類、三々九度で用いた銚子・盃などもあわせて紹介します。

### 六 婚礼の宴

家庭で行っていた婚礼では、大勢の客人をもてなすため、献立を考え、材料を用意し、器の準備をしていました。婚礼で用いられた美しい会津漆器の数々と、会津地方と福島県南地方の江戸時代の婚礼料理の一例を復元してご覧いただきます。



島台・富貴台（個人蔵）



八角葵紋九曜紋散薔薇桜蒔絵挟箱（小高町 同慶寺）

### 会期中の関連行事

○記念講演会「結婚式とマナーの変遷」

日時 九月二十五日（日）午後一時半

講師 林原美術館館長 熊倉功夫氏

会場 講堂

「日本ブライダルの歩みと未来」

日時 一〇月二日（日）午後二時

講師 ブライダルファッションデザイナー

桂 由美氏

会場 講堂

○記念公演「婚礼の謡—博物館で模擬婚礼」

日時 一〇月一六日（日）午後一時半

演者 会津能楽会のみなさん

解説 当館学芸員

会場 企画展示室

○展示解説会

日時 一〇月 九日（日）午後一時半

一〇月二九日（土）午後一時半

十一月 六日（日）午後一時半

■秋の企画展《婚礼—ニッポンブライダル考》は平成一七年九月三日（金・祝）から一一月六日（日）まで開催しています。  
 ■観覧料 一般・大学生五〇〇円（四〇〇円）／高校生三〇〇円（二四〇円）／小・中学生一〇〇円（二六〇円）（ ）は二〇名以上の団体の場合の料金です。

## 収蔵資料品展 「中世の恵日寺」 関連事業

七月一六日(土)

記念講演会

「恵日寺と会津の仏教文化」

講師 当館学芸課長 若林 繁

収蔵資料品展「中世の恵日寺」開催初日に行われた、当館学芸課長若林繁による講演会には、一五〇名を超す多くの人たちが訪れた。



講演では、まず展示の中心となる絹本着色恵日寺絵図（恵日寺蔵・当館寄託）についての説明があった。絵図に描かれた正面七間の金堂と『弘法大師行状集記』に記された様子とを比較し、絵図の表現方法などを検討した。

次に、奈良興福寺に学んだ法相宗の僧徳一が、平安時代の初めに都の喧噪を離れ会津へと修行と民衆教化のためにやってきたという恵日寺創建の由来が、恵日寺について書かれた史料の中でも比較的古い『今昔物語集』や『元亨釈書』をもとに紹介され、その後源平合戦の時に平家

方として恵日寺の乗丹房が会津四郡の兵を率いて信州横田河原の戦いに敗れたとする『平家物語』の記載以降、同寺の記録は途絶えることが説明された。

しかし南北朝時代に入り『会津旧事雑考』に薬師如来像や塔が造られたとする記事が見られること、絹本着色恵日寺絵図に三重塔が描かれていること、仏涅槃図（観音寺蔵・当館寄託）が応永一五（一四〇八）年に恵日寺へ施入されたものであること、さらに薬師如来光背化仏（恵日寺蔵）が応永二五（二四一八）年の焼失後に復興された仏の光背のものと考えられることから、

一四世紀後半から一五世紀初め頃が恵日寺の復興期であるという見方が示された。

その他、天正年間（一五七三～一五九二）の伊達政宗の侵攻により荒廃した恵日寺の復興に尽力した玄弘や、元禄一三（一七〇〇）年に入寺し、中興と称えられた大玉村出身の実質など、その時々々の住持により恵日寺が守られてきたことが強調された。また今回出品された恵日寺の什物には、中世から近世にかけて修復された記録が残されているものが多く、恵日寺の来歴を後生に伝える貴重な資料であることが指摘された。

七月一七日(日)

野外講座「史跡恵日寺を歩く」

講師 当館歴史分野学芸員

木田 浩ほか

開催二日目は、絵図に描かれた様子を実感し理解を深めようとの目的から、梅雨の晴れ間の暑い日差しにもかかわらず、総勢三〇名を超える老若男女が史跡恵日寺周辺を探索して歩いた。

絵図の第一の鳥居付近と考えられる場所から一直線に続く参道を北上し、『新編会津風土記』に「恵日寺の三橋」として記され、縁起にはこれらを渡ると

東方淨瑠璃薬師如来に結縁できるといご利益が説かれる日橋・大谷橋・高欄橋のうち二つの橋を渡り、伝徳一廟を目指した。

「第二の鳥居はこの辺りかな?」「きつと本坊がここだからもつと先ですよ。」などと参加した方々が思いおもいに絵図に描かれた様子をひとつひとつ自分の目で確かめながら、興味深く歩く姿が見られた。

史跡内では学芸員によ

る石敷広場や金堂跡などの遺構、伝乗丹房墓や伝徳一廟塔などの石塔の説明が行われ、参加者のなかには平安初期、創建当初の恵日寺の様子を思い描きながら、興味深そうに聞いている人もあった。

最後に多くの参加者は、磐梯山慧日寺資料館を観覧し恵日寺に残された什物や関連する資料、磐梯山への信仰などについて学び、会津の仏教文化についての理解を深めた。

(文責 歴史分野学芸員

木田 浩)



恵日寺跡をめざして歩く

## 只見川流域の雛流し

佐々木長生 民俗担当

福島県大沼郡金山町から三島町にかけての只見川流域では、雛流しといって紙で作った素朴な雛人形を流す行事が、数か所で行われている。いつごろから行われているか、その歴史を示す資料はない。文化四年（一八〇七）の「金山谷風俗帳」や「大谷組風俗帳」などにも、雛流しの記録を見ることができない。

現在行われている雛流しは、金山町水沼地区と三島町高清水地区である。昭和四〇年代までは、金山町本名・西谷・小栗山・大志・中川などの集落でも行われてきた。大志の某家では昨年まで行ってきた。高清水では、昭和三〇年代に宮下発電所が建設され、流す場所がなくなつたため廃止されてきたが、昭和六〇年ごろに三島町内の年中行事保護活動のもとに復活し、今日まで継承されてきている。只見川の春の風物詩として、テレビや新聞等で毎年報じられ、話題をよんでいる。

只見川流域の雛流しは、春の節供の三月四日に行われる。節供前に各戸の女性たちは、千代紙や包装紙などを利用して、雛人形を作り始める。雛人形は金山町、三島町でもほぼ共通した形である。全体は和紙とか千代紙などで作り、頭部は短冊状に切った黒髪で髷を結び、顔は和紙を丸めて作る。また、胴体部分は千代紙やきれいな包装紙で、着物のように袖を切つて作る。そして、頭部を着物の形に作った胴体部と結合して作る。これが各地区にほぼ共通した作り方である。雛人形は、その家の主婦から子供まで、大人に教わりながら作ってきた。

雛祭りは各戸で行い、雛人形は女性の数だけ作り、床の間や座敷に飾るのが一般的である。飾り方は、雛壇のように段飾りをしたり、机などに布を敷いて飾るなど、

その家によりさまざまである。高清水の某家では、男児のいる場合は雛人形の脇に張子の天神様や天神様の掛軸を飾り、男児の成長をも一緒に祈る。雛祭り各地共通しているのは、桃色の菱餅を三段重ねにして供えるほか、甘酒を供える点である。お雛様には毎朝ご飯を供え、女の子の成長を祈り、祝う。

雛流しは、各地区とも三月四日に行う。流す場所は、地区ごとと違い、橋の上や傾斜のゆるやかな水辺から流す。流し方も家ごとに流す場合と、地区でまとめて流す場合がある。高清水では、三月四日の午後小学生の子供たちが、真新しい木の箱（横五〇、縦三〇、深さ三〇センチ）を作り、各戸をまわつて雛を集め、この箱に納める。高清水の川上の方の家からまわる。「お雛様いただきに来ました」と挨拶をして訪れる。その家の主婦が、お雛様を大事に持ち寄り、子供たちの持つてくる箱に納める。納め終えると、子供たちは次の家へとまわる。雛流しの場所は、かつては宮下発電所下の只見川へと流したが、現在はやや下流の川岸から流す。子供たちは、健康



流された雛人形に手をあわせおがむ子供たち（三島町高清水）

や無事成長を祈つて、流したお雛様に手を合わせておがむ。

本名地区では、子供たちが集会所のようなどころに集まり、机の上に各自が持ち寄つたお雛様を飾り、ここで甘酒を飲んだり、餅を食べたりする。これをオヒナッコウ（お雛講）と呼んでいる。オヒナッコウが終ると、船の形に作った板上にお雛様を突き刺し、只見川へ流してやる。船を作つて乗せて流すのは、西谷地区でも同じである。西谷では一軒の家ごとに船を作り、そこにその家の女性の数だけの雛人形を乗せて流す。大志地区でも同じ方法である。流す途中で船が転覆すると、子供たちは悲しみ泣いたという。

と、船の形に作った板上にお雛様を突き刺し、只見川へ流してやる。船を作つて乗せて流すのは、西谷地区でも同じである。西谷では一軒の家ごとに船を作り、そこにその家の女性の数だけの雛人形を乗せて流す。大志地区でも同じ方法である。流す途中で船が転覆すると、子供たちは悲しみ泣いたという。

小栗山地区では、藁で円座のように一尺ほどの大きさに作り、そこに雛人形を突き刺し、これを縄で吊るし、橋の上から静かに水面に下ろし、流してやる。また、水沼地区では、橋上から一つ一つ流すが、家ごとに流す。水沼地区の雛流し

で注目すべき行事として、三月四日の朝になると、菱餅を小さく菱形に切り、これを和紙で包んで雛人形に背負わせて流す。お雛様は阿波の徳島まで行くので、道中の食料にという伝承である。お雛様は、淡島まで行くという伝承は各地にもある。



菱餅を背負った雛人形（金山町水沼）

只見川流域の雛流しは、女兒はじめ女性の厄を流すという行事であり、今日のような豪華な七段飾りの雛人形以前の、紙で「形代」を作り、それに厄をつけて流すという雛流しの原形を留めた習俗である。このような紙で素朴な雛人形を作つて川に流す習俗は、東日本では極めて稀な習俗となった。当館では、只見川流域の雛流しの行事を、映像記録に残すべくその準備を行っている。また、体験講座でも「雛人形作り」と「雛流し」の行事を三月に予定している。

Q…最近高松塚古墳が話題になっていますが、福島県内にもおなじような古墳はあるのでしょうか。

A…高松塚古墳は飛鳥時代の終わり頃の古墳で、きれいに切った凝灰岩をほぼ正方形の箱形に組み合わせた石室を埋葬施設としたものです。このような古墳の埋葬施設を横口式石槨といい、高松塚古墳ではその壁面と天井に極彩色の壁画が描かれています。その壁画には貴族と思われる男女の群像や四神（東西南北を象徴する青龍・白虎・朱雀・玄武の霊獣）、日月・宿星などがあり当時の貴族の服装や世界観を表していると考えられます。

福島県内では横口式石槨を埋葬施設とする古墳は白河市谷地久保古墳や石川郡玉川村宮の前古墳の二例があり、古代白河郡の阿武隈川流域に見られます。このような古

Q…福島県内のこれらの古墳に壁画はないのでしょうか。

A…現在のところ壁画があったような痕跡は確認されていません。

県内で古代の壁画があるのは古墳時代の終わりから飛鳥時代の初め頃に造られた横穴墓という墳墓に例があります。この横穴墓というのは凝灰岩や砂岩のような柔らかい岩の崖に穴を彫り込んで造る古代の墓です。この横穴墓は多くの場合一〇基以上で群を形成していますが、この中に中心となる横穴墓の壁や天井に壁画を描く特別な例もあります。西白河郡泉崎村の泉崎横穴墓群、いわき市の中田横穴墓群、双葉郡双葉町の清戸迫横穴墓群、原町市羽山横穴墓群などが有名です。

## 高松塚古墳と

### 県内の古墳

#### Q&A

回答者  
考古担当  
木本二元治

墳は東日本では群馬県や千葉県の一部で少数見られるのみの極めて特殊な古墳です。

Q…県内のこのような古墳にはだれが葬られているのでしょうか。

A…残念ながらだれが葬られていたかはわかりません。ただ谷地久保古墳の場合は所在する丘陵の近くには同じ時期に作られた古代白河郡の郡衙（郡の政事を行う役所）や寺院の借宿庵寺が位置しており、白河郡の大領（郡の長官）が葬られていたのではないかと考えられています。もう一つの宮の前古墳は白河郡衙から一〇キロメートル以上離れた地域にありますが、周囲にはかなり有力な集落や古墳群も見られるので少領（郡の次官）クラスの人

Q…このような壁画を現在は見ることができのでしょうか。

A…これらの装飾横穴は大変貴重なものなので国の史跡として整備・保存処置が講ぜられています。古い時期のものなので公開により劣化が心配されます。そこで、毎年数回時期を決めて公開しています。見学を希望する方は最寄りの市町村教育委員会に確認してください。

\*古代の郡には郡司として大領・少領・主政・主帳の四等官が置かれました。大領・少領の定員は各一名ですが、主政・主帳は郡の規模で六名から一名までと変化します。

いわき市中田横穴墓の壁画



白河市谷地久保古墳の石室

# トピックス「はくぶつかんで遊ぼう！」

博物館に来ていただいた皆様により楽しい体験をしてほしい...そんな思いから、今年の四月「はくぶつかんで遊ぼう！」が誕生しました。

「はくぶつかんで遊ぼう！」では、季節の行事や民俗、そして普段はなかなかできないような工作を体験することが出来ます。『こいのぼり&新聞紙かぶと作り』（四月二〇日）では自分で色を塗ったり紙を切ったりしてこいのぼりを作り、かぶとを折って楽しく五月の節句を体験しました。そのほかにも、現在までに『折り染め』（六月四日）、『七夕かざり作り』（六月一九日）の体験を行いました。

「おもしろそうだな、やってみたいな」そんな気持ちわいてきたら、どうぞお気軽に訪れてみてください。楽しい体験があなたを待っています！



『七夕かざり作り』



『こいのぼり&新聞紙かぶと作り』



『折り染め』

## 今後の予定

- 一〇月一〇日(月・祝) びゅんびゅんコマづくり  
松風ゴマとも呼ばれる簡単なコマを作ります。
- 一一月二〇日(日) おちばアート  
落葉や松ぼっくりを使った工作をします。
- 一月一五日(日) だんごこし  
小正月の伝統行事のだんごこしを体験します。
- 二月一八日(土) ひな人形づくり  
折り紙などを使って自分だけのひな人形を作ります。

場所 体験学習室

時間 午前九時半～午後四時半

(所要時間は二〇分程度です)

参加費 無料

※材料・道具はすべてそろっています。

どなたでもお気軽にご参加ください。

(変更がある場合もございます)

冬の収蔵資料品展 予告

## 江戸時代の地図・絵図

ここに一枚の大きな絵図があります。猪苗代湖や磐梯山、若松城の姿が鮮やかに描かれています。詳しく見てゆくと、今はない村の名前や鉾山の位置など、失われてしまったものや、わからなくなってしまうことがたくさん書き込まれていることに気づきます。この絵図は、いったい誰が何のために作成したのでしょうか。さあ、絵図をめぐる謎解きのはじまりです。当館が収蔵する多彩な地図・絵図類の中から厳選し、その魅力をたっぷりとお見せいたします。



会津領絵図(部分)(館蔵)

■冬の収蔵資料品展「江戸時代の地図・絵図」は、平成一八年一月二二日(土)から三月二六日(日)まで  
■常設展観覧料でご覧いただけます。

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「画題で見る美術―吉祥 福を授ける人びと」  
会期 九月三日(土)から

「画題で見る美術―吉祥 富士・松竹梅」  
会期 一〇月一〇日(月)・祝日まで  
一〇月一一日(水)から

「集めて楽しい・身近なもの」  
―館蔵コレクション展―  
会期 一二月二九日(火)から  
二〇〇六年三月二六日(日)まで

講演・講座

※は要申込

◎企画展記念講演会

「日本ブライダル歩みと未来」  
講師 ブライダルファッションデザイナー 桂 由美さん

◎企画展記念公演

「婚礼の話―博物館で模擬婚礼」  
講師 会津能楽会のみなさん  
日時 一〇月一六日(日)午後一時半～三時

◎企画展展示解説会

「婚礼―ニッポンブライダル考」  
講師 学芸員 小林めぐみ  
日時 一〇月 九日(日)午後一時半～二時半  
一〇月二九日(土)午後一時半～二時半  
一二月 六日(日)午後一時半～二時半

◎体験講座

※「わらわづりをつくろう」(実技)

講師 技術伝承者 鈴木幸雄さん  
日時 一二月六日(土)午前一〇時～午後三時

※「さんぽでこをつくらう」(実技)

講師 展示解説員 大竹さやか他  
日時 一二月一七日(土)午後一時半～三時半

◎美術講座

※「うるしの技に挑戦―沈金」(実技)  
講師 沈金一級技能士 白岩 守さん  
白岩準市さん

日時 一〇月一日(土)午後一時半～三時  
※「うるしの技に挑戦―箔絵」(実技)  
講師 会津工芸新生会副会長 大塚栄一さん  
日時 一〇月二二日(土)午後一時半～三時半

「暮らしの中の美術―人の一生5」  
講師 学芸員 川延安直・小林めぐみ  
日時 一〇月二八日(金)午後一時半～三時半

※「竹細工」(実技)  
講師 人見守彦さん  
日時 一二月二七日(日)午後一時半～三時半

※「ふくしまを知る講座」  
「シリーズ会津の城を歩く3  
講師 学芸員 高橋 充他  
日時 一〇月八日(土)午後一時半～三時半

※「シリーズ会津の城を歩く4 猪苗代城周辺を歩く」(野外)  
(猪苗代町猪苗代城跡他)  
講師 学芸員 高橋 充他  
日時 一〇月九日(日)午前一〇時～正午

◎自然史講座  
※「磐梯山の火山活動を知らう」(野外)  
(北塩原村裏磐梯)  
講師 火山地質研究家 千葉茂樹さん  
学芸員 竹谷陽二郎他  
日時 一〇月二五日(土)午前八時半～午後四時

◎歴史講座  
おはなし博物館1  
「展示資料から法律を読む①」  
講師 学芸員 木田 浩  
「義経と奥州藤原氏①」  
講師 学芸員 高橋 充  
日時 一二月五日(土)午後一時半～四時

おはなし博物館2  
「展示資料から法律を読む②」  
講師 学芸員 木田 浩  
「義経と奥州藤原氏②」  
講師 学芸員 高橋 充  
おはなし博物館3  
「城下のくらし」  
講師 学芸員 阿部綾子  
「戦争と人びとのくらし」  
講師 学芸員 阿部綾子

講師 学芸員 関口 功  
日時 一二月九日(土)午後一時半～四時  
※身近な歴史を発見しよう1 (実技)  
「テーマを見つける 調べる方法を学ぶ」  
講師 歴史分野学芸員  
日時 一二月三日(土)午後一時半～三時半

※身近な歴史を発見しよう2 (実技)  
「実際に調べてみる」  
講師 歴史分野学芸員  
日時 一二月一〇日(土)午後一時半～三時半

※身近な歴史を発見しよう3 (実技)  
「成果と今後の課題を発表する」  
講師 歴史分野学芸員  
日時 一二月一一日(日)午後一時半～三時半

◎考古学講座  
※「会津大塚山古墳を歩こう」(野外)  
(実習室・市内一箕町)  
講師 学芸員 藤原妃敏  
日時 一二月六日(日)午前一〇時～午後三時

木曜の広場  
講師 館長 赤坂 憲雄  
学芸員 佐々木長生  
場所 講堂 入場無料  
日時 一二月六日(日)午前一〇時～午後三時

会津学事始め―四季の折りと暮らし  
◎第七回「会津高野山と祖霊観」  
日時 一〇月二〇日(木)午後一時半～三時  
◎第八回「境の神と藁人形」  
日時 一二月一七日(木)午後一時半～三時  
◎第九回「会津農書」と農耕儀礼」  
日時 一二月一五日(木)午後一時半～三時

実演  
場所 体験学習室  
◎「昔語り」  
語り部 横山幸子さん  
日時 一〇月二日(日)午前一〇時半～正午  
語り部 山田登志美さん  
日時 一〇月三〇日(日)午後一時半～三時  
語り部 山田登志美さん  
日時 一二月一三日(日)午後一時半～三時

◎「会津の唐人風つくり」  
講師 技術伝承者 鈴木英夫さん

日時 一〇月二三日(日)午後一時半～三時  
◎伝統技術実演  
―二本松提灯祭り太鼓台組立とお囃子実演―  
講師 竹田町若連のみなさん  
日時 一二月三日(木)・祝  
午前一〇時半～二時半  
午後一時半～二時半

はくぶつかんで遊ぼう!  
◎一〇月一〇日(月)・祝  
びゅんびゅんゴマ作り  
◎一二月二〇日(日)おちばdeアート  
◎一二月一五日(日)だんごさし  
◎一二月一八日(土)ひな人形つくり

開設時間 午前九時半～午後四時三〇分  
(所要時間はそれぞれ二〇分程度です)  
料金無料

やさしい展示解説会  
\*展示解説員による常設展の案内です。  
\*毎週土曜日、日曜日の午前一〇時半と午後二時から四五分程度行います。  
\*なお、他の行事と重なる場合は開催いたしません。

\*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定表やホームページをご覧ください。

一〇～二月の休館日  
一〇月 三日(月)・一一日(火)・一七日(月)  
二四日(月)・三一日(月)  
一二月 七日(月)・一四日(月)・二二日(月)  
二四日(木)・二八日(月)  
一二月 五日(月)・一二日(月)・一九日(月)  
二六日(月)  
年末年始 一二月二八日(水)～一月四日(水)

\*小・中学生、高校生は常設展を無料でご覧いただけます。

TEL 0242-22-5139